

平成 26 年度石川県立大学大学院生物資源環境学研究科博士論文

## 農村地域における生物多様性保全に関する研究

生物が持つ交感価値の「再発見」と生物保全意識の向上において

住民参加型生物調査に期待される役割

2015 年 3 月

石川県立大学大学院

生物資源環境学研究科自然人間共生科学専攻

草 光 紀 子

# 農村地域における生物多様性保全に関する研究

生物が持つ交感価値の「再発見」と生物保全意識の向上において  
住民参加型生物調査に期待される役割

草 光 紀 子

## 目 次

第1章 研究の背景と目的	1
第1節 背景と目的	1
第2節 既往研究と本研究の位置づけ	3
(1) 環境配慮事業の現状と問題点に関する研究	3
(2) 環境配慮に係る地域住民の意識に関する研究	5
(3) 地域住民参加型生物調査の役割に関する研究	6
(4) 子ども時代の遊びや原風景に関する研究	7
第2章 研究の方法	9
第1節 調査対象地区の概要	9
第2節 調査方法の概要	11
(1) 環境配慮事業の変遷	11
(2) ビオトープの現況	11
(3) ビオトープ完成前までの行政による事前の取り組み	11
(4) ビオトープの利活用の現況と管理者の評価	11
(5) 地域住民によるビオトープへの関心と行動、及び生きものへの関心の把握	13
第3章 ほ場整備事業における生物多様性保全のための環境配慮工法の変遷と課題	23
第1節 本章の目的	23
第2節 石川県における環境配慮施策の展開の概要	23
第3節 研究の方法	28
第4節 結果	29
(1) 石川県における環境配慮施設の設置状況	29
(2) 石川県における環境配慮対策工法の変遷	30
第5節 保全対象種	34
第6節 考察	36
第7節 まとめ	40
第4章 環境配慮施設としてのビオトープの現状評価 —石川県の事例—	42

第1節 本章の目的	42
第2節 生物の生息空間としてのビオトープの評価	42
(1) 調査, 分析の方法	42
(2) 調査結果	48
第3節 自然に親しむ空間としてのビオトープの評価	78
(1) 調査, 分析の方法	78
(2) 調査結果	79
第4節 まとめ	89
(1) 生物の生息空間としてのビオトープ	89
(2) 人が自然に親しむための空間としてのビオトープ	92
第5章 地域資源としてのビオトープの利活用・管理の現状	95
第1節 本章の目的	95
第2節 調査の方法	96
(1) 事前取組調査	97
(2) 管理者アンケート調査	98
(3) 地域住民アンケート調査	100
第3節 事前取組の実施状況とビオトープ利活用の現状	101
(1) 事前取組の実施状況	101
(2) ビオトープの利活用の現状	103
(3) ビオトープに対する地域住民の行動と意識	109
第4節 事前取組が地域住民のビオトープに対する行動に及ぼす影響	110
(1) 認知率	110
(2) ビオトープの設置目的の理解	111
(3) 生き物調査への参加率	114
(4) 維持管理作業への参加率	115
第5節 ビオトープでの活動及びビオトープに対する管理者の評価	116
(1) 管理の必要性に対する考え方	116
(2) 管理者によるビオトープの評価	117
(3) 管理者の評価による生き物調査の効果	118
(4) 管理者の評価と事前取組との関係	119
第6節 まとめ	120
第6章 生物の持つ「交感価値」の再発見に住民参加型生物調査がもたらす効果	122
第1節 本章の目的	122
第2節 調査の方法	122
(1) 事業完了地区	122
(2) 事業進行中地区	125

第3節 生き物調査への参加動機	127
(1) ビオトープの利用状況の概要	127
(2) 生き物調査への参加動機	128
(3) 維持管理作業への参加動機	129
(4) 生き物調査と維持管理作業の参加動機の関係	131
第4節 ビオトープへの関わりがビオトープに対する理解にもたらす効果	132
(1) 生き物調査の実施がもたらす効果	132
(2) 維持管理作業への参加がビオトープの設置目的の理解にもたらす効果	137
第5節 生き物調査を重ねることの効果	138
(1) 地域での活動の概要	138
(2) 生き物調査への参加動機	139
(3) 生きものや環境に対する考え方の変化	140
(4) 生き物調査への参加の意欲	142
(5) 維持管理作業への参加の意欲	143
(6) ビオトープが作られたことに対する感想	143
第6節 まとめ	145
第7章 子ども時代の生きもの遊び経験が原風景形成や地域環境への関心に及ぼす影響	148
第1節 本章の目的	148
第2節 調査の方法	148
第3節 結果	150
(1) 子ども時代の生きもの遊び経験	150
(2) 現在の生物に対する存在認識	152
(3) 子ども時代の生きもの遊び経験が及ぼす影響	154
第4節 まとめと考察	169
第8章 終章	172
第1節 本研究の結論	172
第2節 今後の環境配慮の取り組みへの提案	174
(1) 子ども時代の生きもの遊びを通じた原風景の形成が地域存続に果たす役割	174
(2) 環境配慮施設の造成・利活用における提案	175
要旨	178
引用文献	182
謝辞	186